

令和5年12月20日

上越市長 中川 幹太 様

春日区地域協議会
会長 太田 一已

春日山城跡の観光振興策について

上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の規定に基づき、「春日山城跡の観光振興策について」を自主的に審議した結果、下記のとおりまとめましたので、提出いたします。

記

当協議会では、令和3年度から、地域の観光振興策を自主的な審議テーマの一つとし、調査と議論を重ねてきました。

春日区の住民にとって、春日山や上杉謙信公にまつわる歴史や文化は、郷土愛の醸成や地域活動の活性化に直結する重要な地域資源と言えます。

また、この素晴らしい地域資源を観て、触れて、感じるために、毎年市内外から多くの方々が訪れ、盛り上がりを見せることが地域活動の原動力となる反面、道路状況や駐車場不足に伴う交通渋滞等が課題となっています。

これらのことから、住民の生活基盤が損なわれないことを前提として、市民が憩い、観光客が楽しみ、人々の交流が生まれる春日山城跡を中心とした観光振興を図るべく、春日区地域協議会では、以下のとおり、3つの要素を念頭に、8つの具体的な取組について提案します。

○ 春日山城跡の観光振興の前提とする3つの要素

- ・維持管理が容易な観光資源の発掘と、持続可能な維持管理体制・組織の構築。
- ・最小の投資で最大の効果を生み出す集客の仕組みを考慮する。
- ・年齢や身体的能力等を問わず、誰もが歴史や文化に触れられるよう整備の際に配慮する。

○ 8つの具体的な取組 ※（ ）内は別紙記載ページ

- 1 持続可能な観光振興に向けた資源の活用、人材の確保及びプロジェクトの発足(P1、P2)

市内の豊富な観光資源、自然環境、交通インフラ等を十分にいかすとともに、既存の団体を始め、様々な分野からキーパーソンを発掘し連携することにより、持続

可能な観光振興及び「義の心」の継承が図られ、春日区ひいては全市の活性化にも繋がります。これを前提とした春日山観光を企画・運営する官民連携のプロジェクトの発足が不可欠と考えます。

2 春日山周辺の道路、駐車場の問題と対策（P3～P7）

来訪者のアクセスしやすさと、渋滞や路上駐車等といった地域住民の生活に影響を及ぼす課題は表裏一体であるため、春日山城跡周辺の明確な案内看板の設置、駐車場や車道拡幅等の整備が必要です。また、春日山城跡における古道やトイレの整備により、来訪者はもとより、保全活動や学習を行う地域住民の利便性の向上が図られます。

3 監物堀や史跡保存エリアの活用によるフラワーパーク構想（P8～P11）

春日山城跡には、大手池や監物堀、愛宕谷池を水源とする御館川などの水辺や湿地が多く、カキツバタや睡蓮、蓮などが季節ごとに楽しめます。また、秋には二の丸の一本イチョウが黄色に輝くほか、地域住民の植栽活動による、桜、アジサイ、そばの花などが出迎えてくれます。

これらを、一年を通して楽しめるよう計画的に植栽し、自然の山城である春日山をフラワーパークとして彩ることで、市民も観光者も春日山城跡の広い輪郭を歩きながら楽しむことができます。

4 区内の既存施設を活用し「春日山観光ビジターセンター」の設置（P12～P14）

春日山は、ただ見るだけ、楽しむだけでなく、直接歴史に触れ、体感しながら学ぶことができる貴重な山城であり、その拠点となり得る施設の設置が望まれます。

例えば、埋蔵文化財センターを活用し、文化財の研究・保管・公開と春日山観光及び地域活動の拠点施設とすることで、現在の機能を損なわず、地域住民と来訪者がともに春日山を学び、遊び、活動することのできる拠点となります。

5 春日山周辺ににぎわいをもたらす「春日山楽市楽座」等のイベントの実施（P15、P16）

春日区の大きな集客イベントは謙信公祭ですが、この他に通年でイベントを開催することにより、イベントの開催者、観光客などの来訪者及び地域住民との間で交流が生まれ、地域ににぎわいをもたらします。古くから東西の文化の丁字路であるこの地で、途絶えることなく今後も歴史・文化の交流が続きます。

6 「春日山城」、「上杉謙信」にちなんだ銘菓、特産品の開発（P17、P18）

来訪者が春日山にまつわる思い出を語る際、「春日山城」、「上杉謙信公」を思い出させる土産を買っていただくことが有効と考えます。誰もが楽しめて、思い出の「おすそわけ」が容易にできる消費期限や包装等に配慮した銘菓や特産品が豊富にあると、（また）行ってみたい、食べてみたい、買ってみたいというマインドの醸成につながります。

7 謙信公を題材にした「歌曲」や「演舞」、「紙芝居」などを創出し、上越市を文化・芸術都市に（P19～P21）

上杉謙信公が生まれ、生涯を過ごした上越でしか触れられない、謙信公を題材とした作品を創出し、観光との相乗効果が発揮されることを期待します。しかし、そのためには長い年月の積み重ねが必要です。早急に地域の歴史に明るい方から知識を習得するとともに、地域住民等の参加により根気強く取り組む必要があります。

8 春日山登山道の整備と将来構想（P22～P24）

春日山は天然の要塞を持つ難攻不落の「城」であり、山城の特徴を残す貴重な史跡である反面、本丸までの登山道の一部に段差が大きいところがあり、決して上りやすいとはいえません。これからは、高齢者や身体的能力により登山が難しい方にも、歴史に触れる楽しみを提供できるよう、整備の際は、史跡に配慮しつつ、可能な限りユニバーサルデザイン化を推進する必要があります。

上記意見の具体的な内容については、別紙のとおりです。

具体提案事項

意見 1. 持続可能な観光振興に向けた人材の確保とプロジェクトの発足

①観光振興の問題点

- ・豊富な観光資源が活かされていない現状

上越地域には日本海や妙高山などの自然が豊富で、古代の奴奈川姫と大国主命の伝説から戦国時代の上杉謙信などの歴史的財産も豊富にあります。観光に十分活かされているとは言えません。

例えば、郷津付近に「古事記」で登場する大国主命と奴奈川姫が暮らした伝説がありますが、大半の市民は奴奈川姫の名前すら知らず、岩殿山を訪れる人はほとんどいません。岩殿山には上杉謙信の墓があるという話を聞いたことがありますが、それがどこにあるのかを知っている人は皆無ではないでしょうか。

また、戦国時代の支城が沢山ありますが、春日山城と各支城を巡る定期的なツアーがあってもよいと思うのですが、各支城で単発のイベントが実施される程度です。

- ・観光をリードするキーパーソンの不在

数年前に長野県の松代城へ視察研修に訪問した時、地元の観光ボランティアの代表が城内を案内してくれました。城の復元は地元の住民の熱意が行政を動かして実現したようです。令和 4 年も視察研修でその後の松代城を訪問してきましたが、今は城外にある埋め立てられた堀を発掘中で、発掘調査後に堀を復元するとのことでした。松代城の視察研修では、十分に活用されていない観光資源を生かすには、その価値を理解し観光に活かそうとするキーパーソンの存在が必要であることを教えられました。

また、城の復元には図面や写真など客観的な証拠が必要ということも教えられました。春日山城は廃城後の経過年数が長いため、過去の姿を復元することは相当困難ですが、米沢などに眠る古文書や絵図面を発掘できる専門的なキーパーソンの登場が求められます。

- ・春日山城跡保存整備促進協議会や謙信公祭実行委員会などの活動

春日地区町内会長連絡協議会が母体となって、春日山城跡保存整備促進協議会が春日山周辺の古道の整備に取り組み、謙信公祭実行委員会が謙信公祭の運営にあたっています。特に春日山城跡保存整備促進協議会は、埋もれた古道の復元などで実績を残してきました。

②持続可能な観光振興に向けた人材確保と後継者育成

- ・各分野の人材確保

春日山観光の振興を考えると、地元の各種団体と行政が協力して取り組まなくてはなりません。共通して言えることは、春日山城の歴史的な価値・魅力を理解し外部にアピールできる人材や、将来を見越した交通アクセスなどインフラ整備のビジョンが描ける人材、観光客の行動を分析して食事や土産などの商業施設等のビジョンを描ける人材を確保しなくてはなりません。

- ・春日山観光振興のプロジェクト発足

官民から各分野の人材を集め、将来の春日山観光を企画・運営するプロジェクトの発足を提案します。

このプロジェクトがP D C Aのサイクルをまわして、現在の春日山観光の現状を把握・分析し、新たな春日山観光振興策を立案、その後の実施状況をフォローして、観光振興施策を修正します。

- ・観光ガイドや武将隊の充実

インバウンドも考慮した観光ガイドの養成と春日山城周辺で観光客をもてなす、越後上越上杉おもてなし武将隊や一義会などの増員・教育訓練によって、陣容をもっと充実させることを提案します。

上越市外への観光キャンペーンや物産展などに同行して、春日山城や上杉軍団のアピールを積極的にしていただきたいと思います。

また、将来の観光ビジターセンターや春日山神社で、演武、武禊式、記念撮影などで観光客をもてなします。

③予想される効果

春日山観光振興の成否は、観光に関係する各分野での人材確保ができるかどうかでしょうか。

外部業者が委託を受けて春日山観光振興策を提案するやり方もあるでしょうが、本当に春日山や上杉謙信公を敬い、愛する地元の英知を集めることが先決です。

地元の人材を継続的に育成し、観光振興策を修正しながら取り組むことで、着実な前進が図られ、単に観光客を増やす観光振興策でなく、交通渋滞などで地元住民に迷惑が掛からない、真っ先に上越市民が喜んで来て楽しんでいただける観光地・春日山になるものと推察します。

なお、今回の提案は春日山に限らず、他の観光地においても共通する課題への提言です。

意見 2. 春日山周辺の道路、駐車場の問題と対策

(1) 愛宕谷公園の有効活用

① 愛宕谷公園の現状の問題

令和 4 年 11 月の視察研修先の松代城や上田城では、城の近くに駐車場が整備され、交通アクセスが良好でした。それに比べ春日山城は山城であり、広い駐車場の整備は困難な状況です。

愛宕谷公園には、駐車場（20 台程度）やトイレが整備されていますが、利用者がほとんどいない現状です。この公園には、「黒金門」や上杉謙信の館跡とされる「御屋敷」を通過して春日山神社に至る古道の入口があります。



黒金門経由で御屋敷へ至る古道の看板

これまで、春日山城跡保存整備促進協議会が 2 期に分けて地域活動支援事業を活用し、藪になっていた古道を整備しました。かつては、春日山城の西側にある大手道に匹敵する重要な道であったと思われます。



愛宕谷公園入口の看板

しかし、この古道の案内看板が小さく、杉林で薄暗いため、道を上って行く市民や観光客はほとんどいません。途中の黒金門があったところにも、説明看板はありません。

さらに、途中の御屋敷や春日山神社境内にも古道の全体像が分かる地図が無く、古道をいかすことができていません。

② 愛宕谷公園の有効活用策の提案

・入口看板を地図入りに

愛宕谷公園の入口と愛宕谷公園から黒金門経由で御屋敷に至る古道の入口に大きな地図入りの案内看板を設置することを提案します。この公園から春日山神社に歩いて登れることが分かるようにします。

・仮称「黒金門古道」の周知

愛宕谷公園や黒金門経由の古道の存在について、ほとんど市民等に知られていません。このため、SNSを利用した林泉寺と春日山を結ぶ新たなルートの紹介や、定期的な愛宕谷公園を含むイベントでの周知を提案します。

また、小中学校に課外授業での春日山城の歴史講座を推奨し、愛宕谷公園から春日山神社を経由し春日山の山頂から大手道へ下る古道について、積極的に紹介すべきです。



春日山神社境内から御屋敷への降り口

・愛宕谷公園の用途、機能の見直し

これまでの愛宕谷公園の魅力は、蓮池を中心にした庭園だったと推察されます。しかし、夏は雑草に覆われ観光客も訪れない状況で、定期的な草刈りが行われています。この公園を観光バスの駐車場として活用し、春日山観光の重要インフラとして整備すべきではないでしょうか。



愛宕谷公園の駐車場

その際、公園入口の道路の拡幅が必要です。

場 所	台 数	備 考
謙信公銅像前	10 台	舗装
三叉路	3 台	舗装
春日山神社階段下	22 台	舗装
御前清水	10 台	砂利
愛宕谷公園	20 台	舗装
大手道公園	10 台	砂利
林泉寺	35 台	舗装
埋蔵文化財センター	67 台	舗装
	100 台	砂利

春日山周辺の駐車場 ※地域協議会委員調べ

(2) 大手道公園と大手道の整備活用

① 大手道公園の問題点

大手道公園は、大手池の用水を管理する「蟹池用水組合」が大手池周辺の有効活用のため地域活動支援事業を利用して、雑木林を刈り払い駐車場の整備や、堤防にアジサイを植栽し、公園化しました。この大手道公園に車を置いて春日山城本丸に至る大手道がありますが、広く市民に知られていないため利用者は少なく、公園には木陰を利用して休憩する車が散見される程度です。

また、県道から大手道公園に至る道路（市道白山神社蟹沢線）の幅員が狭く、乗用車のすれ違いができません。さらに、公園にはトイレがありません。



大手道公園の駐車場、奥に大手池

② 大手道公園の有効活用のための提案

- 春日山に至る県道からの大手道公園入口に大きな案内看板の設置を

大手道公園に至る道路には道標があるだけなので、地図入りの大きな案内看板の設置を提案します。



大手道入口の道標

- 大手池に至る道路の拡幅

県道から大手池公園に至る道路の拡幅と舗装を提案します。今後、春日山周辺の古道を巡るハイカーが増えた場合、公園までの道路で車がすれ違

いできるようにする必要があります。当面はすれ違いできるように途中に膨らみを作っていただければと考えます。

- 大手道公園に水飲み場とトイレの設置

蟹池用水組合が公園整備したときは、地域活動支援事業という限られたわずかな予算しかなく、水道管を敷設しトイレを作る余裕はありませんでした。大手道という謙信時代のメインストリート脇にある大手道公園のインフラ整備を提案します。

- 駐車場の拡張

現在の大手道公園の駐車場は10台分程度のスペースしかありません。今後のハイカーの増加を見込み、駐車場の拡大が必要と考えます。御前清水の駐車場を含め、春日山周辺のメインとなる大規模な駐車場があってもよいのではないのでしょうか。

- 大手道から車で春日山神社に至る車道の整備

大手道からは乗用車で大手道公園脇を通って春日山神社や上正善寺へ行くことができます。

しかし、整備されていないため幅員が狭く、現在は春日山神社へのルートは通行止めとなっています。

春日山城跡内の道路のた



三の丸付近の車両通行止めの地点

め、安易な拡幅は難しいと思われませんが、春日山神社周辺の交通渋滞緩和に活用できる余地があります。

(3) 考えられる効果

・愛宕谷公園と古道の周知と利用者増加

春日山城に至る新たな観光ルートの創出が可能になります。

林泉寺方面から来た市民や観光客が春日山神社の階段下まで行かずに、愛宕谷公園から春日山神社境内へ行き、さらに春日山本丸を目指せます。この仮称「黒金門古道」は案内看板や観光マップ、SNSなどで大いに宣伝し、周知を図りましょう。

・大手道公園の有効活用と大手道利用客の増加

大手道が謙信時代のメインストリートだったことを現地で誰もが分かる案内看板を設置することで、大手道の利用者が劇的に増加すると思われています。

現在の道路の乗り入れを制限するのではなく、大手道経由で謙信公銅像前に至る車道を整備することで、交通渋滞緩和に寄与します。

なお、大手道側の車道の幅員が狭いので、一方通行とする使い方がよいかと考えます。

・春日山城の壮大なスケールを知る

仮称「黒金門古道」と大手道の利用により、春日山城の全体像を歩いて知ることができるようになります。春日山城の散策を推奨しましょう。

また、次世代を担う小中学生等の遠足コースとしても活用が期待されます。

このほか、春日山を会場としたオリエンテーリング等のスポーツのコース設定が容易になり、大会等を開催することにより、全国だけでなく世界からの来訪が期待されます。

・交通インフラに寄与

春日山神社の周辺に集中する混雑の緩和が期待できます。

また、冬期を除く4月から11月まで、愛宕谷公園や大手道公園の活用が期待され、特に5月の連休やお盆における春日山周辺の交通渋滞の緩和に役立てることが出来ます。

意見3. 監物堀や史跡保存エリアの活用によるフラワーパーク構想

(1) 監物堀の活用

① 監物堀の課題

大豆地内の「春日山城跡ものがたり館」と「春日山城史跡広場」の間に監物堀と土塁が復元されています。しかし、規模が小さく全体のほんの一部でしかありません。

春日山城は城郭を復元する図面等の根拠が無いいため、城郭の復元は認められていませんが、監物堀は発掘によって復元が可能な史跡と言えます。



ものがたり館と監物堀、土塁

② 監物堀の活用提案

・監物堀の全体発掘と復元

ものがたり館から埋蔵文化財センター北側までの監物堀を全て発掘し、監物堀と土塁を復元することを提案します。



ものがたり館南側の監物堀、土塁

(2) 史跡保存エリアの活用

① 埋蔵文化財センター北側の公有地の問題

公有地化された史跡指定地は、管理組合によって草刈り保全だけで発掘調査もなく、全く利用されていません。



埋蔵文化財センター北側の史跡公有地

② 公有地の活用提案

監物堀の部分にはカキツバタやスイレン、蓮などを植栽し、土塁や山側の休耕田のエリアには深く根を張らない草花を植栽し、遊歩道を巡らせて市民や観光客が散策できるように整備することを提案します。

③ 大手道公園に至る公有地の活用

大手道公園へ向かう道路沿いの公有地には、カキツバタが植えられています。よく見るとカキツバタと一緒にセリが繁茂しています。水田だったところなので自然に増えたものと推定されます。

湿地に適した花を觀賞する植物のほかに、セリやクワイなども共生させ、市民に提供する催しがあってもよいかと考えます。



大手道公園へ行く道路沿いのカキツバタ

(3) 春日山の景観改善とフラワーパーク化

① 春日山の景観改善の経緯と課題

春日山の西側や南側は、杉林の伐採によって、平野部からの景観や春日山神社境内や三の丸等などからの眺望もよくなりました。

しかし、まだ春日山の東側は杉林に覆われています。春日山の東側は御屋敷に至るまで屋敷跡と思われる平坦な段差が連続して見られますが、杉林に覆われていて発掘等による調査が行われていません。今後春日山の東側の杉林を伐採し、伐採後の発掘調査による城の全容解明と城の復元に役立てるべきです。

② 春日山周辺の草花植栽

令和5年6月27日(土)の春日山視察研修では、愛宕谷公園のスイレンや大手池公園の堤防沿いのアジサイが見頃でした。

季節ごとに草花を楽しむことができるような、植栽の配置などを工夫できればと考えます。

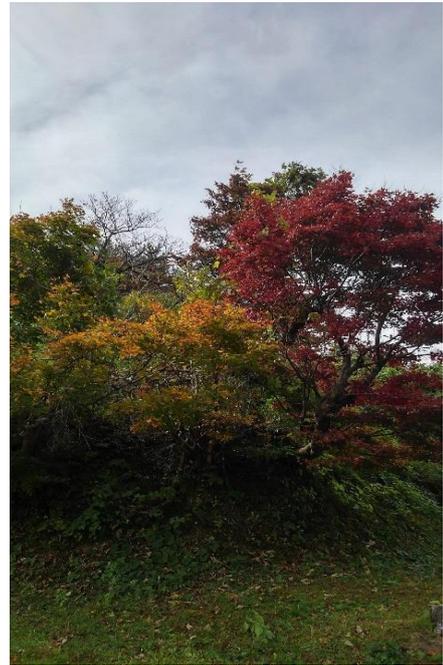


大手池公園堤防に植栽されたアジサイ

- ③ 春日山城周辺を天然のフラワーパーク化
春日山城周辺は、そのままでも天然の植物園と言えます。春のカタクリやイワカガミに始まり、ツツジやヤマユリと続き、秋はモミジの紅葉やイチョウなどが見頃となります。

また、春日山では、どこでも青苧を見ることができます。しかし、多くの市民や観光客は、それが青苧であることを知りません。

春日山周辺に自生する特徴的な植物に名札や説明看板を支障の無い手法で取り付けることを提案します。



春日山城本丸東下の紅葉

- ④ 春日山の「お花畑」にお花を
春日山城の本丸近くにあるお花畑にも史跡として支障のない範囲で、草花の植栽をしてもよいのではないのでしょうか。



春日山城本丸近くのお花畑

- ⑤ 予想される効果

- ・ 監物堀と土塁の全体復元で春日山城復元の起点に

春日山城の復元について、これまでは正確な絵図面等の証拠が無ければ不可能と言われてきましたが、ものがたり館付近の監物堀は、発掘による調査で復元が可能であることを教えてくれました。

今後、監物堀や土塁の全体復元によって、ここに城があったことをアピールすることができます。さらに、春日山周辺の発掘調査を行うことが、屋敷の復元等への起点になるものと思われます。あわせて、監物堀沿いへの遊歩

道整備により、市民や観光客が監物堀に植えられたカキツバタなどを観賞しながら散策できるようになります。

- ・ 四季を通じた春日山のフラワー観光

春日山に城は残っていませんが、城の名残と草花が来訪者を楽しませてくれます。杉林の伐採を行うことで春日山城の輪郭がはっきりわかるようになり、100年前の姿を取り戻すことができます。

また、杉の伐採後に広葉樹等が根付くことで、春の芽吹きや秋の紅葉など春日山全体の季節による景観の変化を楽しむことができます。天然の草花とカキツバタやアジサイなど人工の植栽の組合せが春日山フラワーパークを構成し、市民や観光客を楽しませてくれます。

- ・ 高田城址公園などとの連携でメガフラワーパークに

高田城址公園の桜や蓮の花、坂口記念館のユキツバキ、柿崎海岸のアマナスミレやイソスミレ、安塚などのヒマワリ、光ヶ原高原などのそばの花、花ではありませんが、秋の国府もみじ園や信越トレイルのブナ林の紅葉など上越市全体が連携したメガフラワーパークへと発展させましょう。全市のフラワーカレンダーを作成しホームページ等で周知し、四季ごとの「お花まつり」を企画運営し、市民や観光客に楽しんでいただきましょう。

意見 4. 区内の既存施設を活用し「春日山観光ビジターセンター」の設置

① 現在の春日山観光関連施設の現状

現在、春日山案内職員による周辺施設や市内観光名所等の案内のほか、埋蔵文化財センターが春日山観光案内所の役割を担っていますが、当該施設に展示コーナーはあるものの、土産売り場やレストランなどのエリアがないのは残念なことです。

また、大豆地内にある春日山城跡ものがたり館は駐車場が狭く、建物内の展示スペースも狭いため、観光バスなどで訪れる団体の観光客を受け入れられる状況にありません。春日山の観光振興のために春日山の近くに観光専用のビジターセンターの設置が望まれるところですが、春日山城跡の保存エリアに新たな建造物の設置は困難な状況です。

② 埋蔵文化財センターを専用の観光ビジターセンターに

・埋蔵文化財センターを観光ビジターセンターにリニューアル

埋蔵文化財センターを観光専用施設にリニューアルすることを提案します。現在保管されている発掘品などの保管は廃校舎を活用し、発掘品の復元やトリミング、展示は、釜蓋遺跡ガイダンスに移転することを提案します。

中庭のある四角い通路のような埋蔵文化財センターの建物の構造を利用し、玄関ホールの上に第1区画：戦国時代の歴史絵巻、第2区画：春日山城の見所の紹介、第3区画：土産物販売、第4区画：飲食ブースと巡るような構成としたらよいかと考えます。

・玄関ホール

観光客を迎え入れるホールなので、春日山城の第一印象を強烈に与える工夫が必要です。まず、観光ガイドは上杉謙信や直江兼続公などの武将の甲冑を着てもてなします。そして、謙信が崇拝した毘沙門天の像と「毘」と「龍」の旗を配して、観光客が武将と一緒に記念撮影できるコーナーを設けます。現在設置されている春日山のジオラマは第2区画で活用します。

・第1区画：戦国絵巻の工夫

戦国絵巻のコーナーは単なる展示ではなく、武将の着付けや剣舞の体験、狭い空間を利用した迷路や忍者の体験など、入館者が楽しめる体験型のエリアを目指してはいかがでしょうか。また、上杉謙信の教えを学び、川中島合戦クイズや御館の乱クイズなどで楽しんでもらいます。

- ・第2区画：春日山城の見どころ紹介

戦国時代の山城でも難攻不落の名城として、自然の地形や人工の空堀などをパネルや動画で紹介します。また、春日山の要所など見どころを散歩コースとして紹介するのもよいかと考えます。

- ・第3区画：土産物売り場

土産物売り場には、春日山にちなんだ銘菓や上越市の産品を揃え、あわせて上越地域の銘酒試飲コーナーの設置を提案します。

- ・第4区画：飲食ブース

飲食ブースには、テナントによる軽食エリアの他に弁当を置きます。100席程度を用意し、団体客には「謙信特製弁当」を予約制で提供し、大人数に対応できるようにします。その際、調理場の投資を抑え人件費が掛からないような配慮をすべきか考えます。

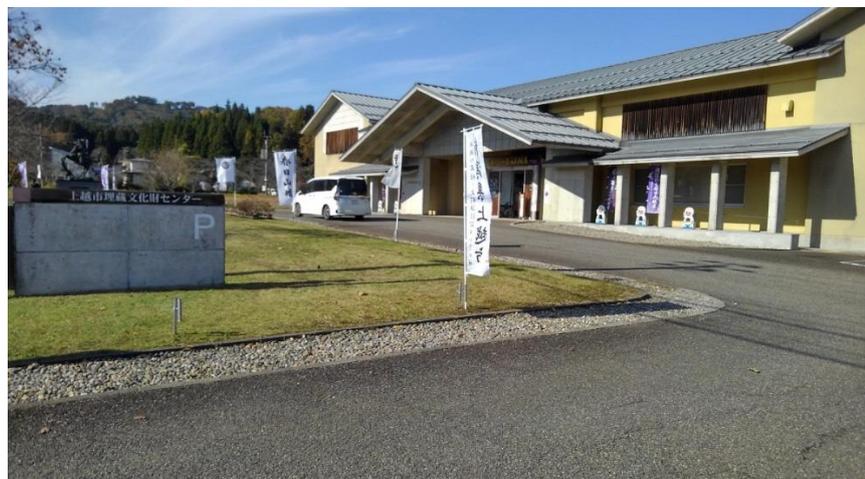
- ・2階の学習室の活用

現在2階の学習室は、ほとんど使われていません。上越観光コンベンション協会の事務所や越後上越上杉おもてなし武将隊などの事務所兼休憩所として活用すべきか考えます。

③観光ビジターセンターの周辺整備

- ・ビジターセンターを山城のように見せる外装の工夫を

敷地の境界に柵を設け、センターの外壁を黒く塗るなどの工夫があればと考えます。



埋蔵文化財センター

・屋外駐車場の拡張を

埋蔵文化財センターの西側（上越市春日山ペタンク場を含む）の草地は、謙信公祭の際、B級グルメイベントや全国の武将隊の演武などのステージイベントに使われたことがあります。ここを舗装して高齢者や足の不自由な方専用の駐車場にし、イベントの際は臨時のイベント用地として活用したらよいかと考えます。

また、既設の埋蔵文化財センター東側の駐車場は、未舗装のエリアがあり、同センター北側の奥まで舗装し、大きなイベント時の駐車場として活用すべきかと考えます。



埋蔵文化財センター駐車場：左側（北側）が未舗装

④ 観光ビジターセンターへの改装による効果

観光ビジターセンターを新たに建設するよりも遥かに少ない予算で、本格的な観光ビジターセンターを春日山の麓に構えることができます。

また、通年観光の拠点となるでしょう。観光客が減る冬期の観光振興のため、上越妙高駅や春日山駅、直江津駅、春日謙信交流館、文化会館などと連携して「越後謙信・冬・食の陣」や「越後謙信・冬・酒の陣」、「越後謙信・冬・ミニ謙信公祭」を開催して春日山に賑わいをもたらしましょう。

さらに、冬期間でも春日山の本丸まで上がる人がいるので、「春日山スノーハイクやトレッキング」を紹介するのもよいのではないのでしょうか。

意見 5. 春日山周辺ににぎわいをもたらす「春日山楽市楽座」等のイベントの実施

①これまでの春日山周辺のイベント

謙信公祭は毎年 8 月に二日間開催されています。出陣行列と川中島合戦の再現が主な行事です。過去には、高田本町通りや直江津駅前付近まで出陣行列を実施しましたが、近年は春日山の麓に限定された祭りとなっています。

他に不定期な行事として、春日山駅前での「にぎわい縁日」や「軽トラ市」、春日山公園雅子妃の森での「クラフトフェア」が行われてきました。これらは春日商工振興会や地元有志が地域活動支援事業を活用して複数回開催されましたが、現在は実施されていません。

②春日山周辺での通年にぎわいイベント提案

・春日山版「楽市楽座」

埋蔵文化財センターや春日謙信交流館での謙信フリーマーケットや謙信物産展、春日山B級グルメフェア、謙信クラフトショップ、春日週末リサイクルショップ、謙信公朝市、軽トラ市の定期開催を提案します。出展者からは500円程度の協力金をいただき、会場周辺の交通整理や環境整備の経費に充てます。これらのイベントについては、会場を提供するが補助金のいない運営を目指します。

・春日山神社に武将隊の常駐

春日山神社に上杉謙信や景勝、景虎、直江兼続などの甲冑を着た武将が日替わりで常駐した観光客へのサービス提供を提案します。武将は、春日山城跡の観光案内ができ、武将との記念撮影のサービスを提供します。その際に観光客から協力金をいただいて、武将役（ボランティア）の日当に充てます。（イタリアのコロッセオでは、鎧を着た剣闘士との記念撮影は有料で、15年前は2000円程度でした。）

・ミニ謙信公祭の実施

上杉謙信の誕生日、享禄3年（1530年）1月21日と命日の天正6年（1578年）3月13日、守護代長尾家を相続した天文17年（1548年）12月30日から毎月13日と21日、30日をミニ謙信公祭として、春日山神社の参道や境内での屋台販売や武将隊による演武などを行い観光客に楽しんでいただくことを提案します。

- ・支城との連携プレー

春日山城の支城は地元の団体が維持管理され、各々祭事を行っています。謙信公祭での狼煙上げだけでなく、春日山城と支城が連携して出陣行列を行うなどの交流を提案します。また、支城の記念事業には「越後上越上杉おもてなし武将隊」だけでなく「一義会」や他の武将隊の派遣を積極的に行うべきかと思えます。さらに、上越地域に限らず県内外の支城とのネットワーク構築も必要かと思えます。

- ・地元町内会や春日商工会、上越市青年会議所などの民活利用

謙信公祭では、地元町内会や春日商工振興会が中心的な役割を担っています。20年ぐらい前は上越青年会議所「千人綱引き」などで謙信公祭を盛り上げていました。以前のような結束が生まれたらよいと思えます。

③春日山楽市楽座など、にぎわいによる効果

この提案は、大きな投資や多くの維持費を掛けずに春日山ににぎわいをもたらす提案です。

春日山ににぎわいをもたらす場の提供によって、各種イベントが定期的に行われ、活動が根付くことを期待します。また、越後上越上杉おもてなし武将隊や一義会の武将から、ミニ謙信公祭などで春日山周辺のイベントを盛り上げてもらいます。さらに、多くの支城との連携が図られ、謙信公祭や各支城の戦国時代劇などが盛んになります。

意見6. 「春日山城」、「上杉謙信」にちなんだ銘菓、特産品の開発

① 現在の春日山や上杉軍にちなんだ銘菓

春日山や上杉軍にちなんだお菓子として、きな粉に黒蜜をかけて美味しくいただく「出陣餅」が挙げられます。これに匹敵する、春日山をイメージする銘菓の誕生が期待されます。

② 春日山に定番のお菓子のお土産を

・川渡餅を通年販売に

毎年11月30日と翌12月1日の2日間のみ販売される「川渡餅」の通年販売を提案します。現在の川渡餅の形状に工夫を加えて販売します。独特な形状に工夫を凝らしている伊勢の「赤福」や加賀の「加賀福」に負けない銘菓を通年販売するのです。

川渡餅は、上越市内の複数の菓子店で製造されており、各店舗の工夫によって個性を出すことができます。また、名称は、「謙信餅」や「第一義」、「春日山」などが考えられます。デザイン上の工夫として、餅の餡子の上に「義」の刻印や、きな粉で上杉家の家紋を描いたらよいかと思います。

・米どころの米菓開発

新潟県内には、米菓のヒット商品が数多くあり、春日山だけでなく上越を代表する新たな米菓の誕生に期待します。

③ 上越地区の名産品を活用

・日本酒をお土産に

上越地域の酒蔵に春日山や上杉謙信などを連想させる銘酒を醸造していただき、観光客のお土産として販売することを提案します。

既に上越市内外の酒造会社では、上杉謙信にちなんだ名称の酒を製造、販売しています。また、越後・謙信 SAKE まつりでは、2日間限定で「車懸」が販売されています。

商標登録がどの程度行われているか分かりませんが、春日山や上杉謙信に関連したお酒が新たに生まれることに期待します。

・上越産ワインをお土産に

岩の原ワインには、創業者の川上善兵衛の名を取って「善兵衛」というワインがあります。マスカットベリーAを使った赤ワインに春日山や上杉謙信に関係した名前のワイン誕生に期待します。

- ・上越地域の食材を使った料理

上越地域では、四季を通じて様々な食材が採れ、その食材を使った美味しい料理があります。特筆すべき物として、春から初夏の根まがり竹を使った「タケノコ汁」、夏は大洞原の高原トマト、秋はブドウや柿、栗、イチジクなどでしょうか。

特に根まがり竹とサバ缶を入れた「タケノコ汁」は大変人気のある料理です。これを春日山周辺の料理店で「謙信御膳」の汁物の定番にできればと思います。また、皮がついたまま焼いた根まがり竹も、トウモロコシの香りがして人気があります。

「上越に来たら美味しい酒とタケノコ汁を食べて帰ろう。」をキャッチフレーズにしましょう。根まがり竹は、生のまま保存ができず、ビン詰にしていますが高価です。雪中貯蔵など、生のままで保存できるようになればと思います。

④ 上越の名産品開発の効果

- ・銘菓の開発でお土産の品数豊富に

お菓子に限らず春日山にちなんだお土産と名物料理の開発と普及が期待できます。特に「川渡餅」の年間2日間のみの販売は、もったいない話です。

- ・地元の酒祭り定期開催で盛り上げを

越後・謙信 SAKE まつりは、毎年2日間だけの開催です。規模を小さくして通年開催すべきです。会場へ電車で来やすい春日山駅前の春日謙信交流館を会場に、上越地区の酒蔵や酒屋さんの協力で月例開催し、全国からお酒ファンを集めましょう。酒祭りに来られたお客に春日山観光も楽しんでいただけます。お酒が入るので上越妙高駅や高田駅、直江津駅周辺の宿泊施設の宿泊客増加も期待できます。

令和5年7月1日（土）に高田まちかど交流会で開催された「上越妙高サカヤノススメ～SAKAYA でナイト」が意欲的な試みだったと思います。酒の肴に地元の魚や野菜を使った屋台の参加もよいのではないのでしょうか。

意見 7. 謙信公を題材にした「歌曲」や「演舞」、「紙芝居」などの芸術を創出し、上越市を文化・芸術都市に

① 「上杉謙信」をメインに上越地域の歴史、文化芸術の財産を大切に

上越地域は古代の「大国主命と奴奈川姫」の伝説があり、中世は「親鸞上人の越後への配流」、戦国時代は「上杉謙信と武田信玄の川中島の戦い」や「御館の乱」、江戸時代は「小栗美作と越後騒動」、近世は「戊辰戦争と高田藩」、太平洋戦争中は「直江津捕虜収容所の悲劇」など悲喜こもごもの出来事がありました。

その中でも広く国内に知られているのは、「上杉謙信と武田信玄の川中島の戦い」ではないでしょうか。

春日山観光は春日山に行くことだけではありません。上杉謙信の幼少期の体験や「川中島の戦い」など数々の戦（いくさ）、家臣の謀反への対応など波乱に満ちた人生から、謙信が家臣や後世の人々に訴えたいことを歌曲や演劇などで表現することです。林泉寺に残る額に書かれた「第一義」とはどういう意味でしょうか。国内だけでなく広く世界に「上杉謙信スピリット」を様々な芸術表現で観客に訴えかけましょう。

② 上杉謙信の生涯を劇場で表現

・上杉謙信の生涯を演劇にして定期公演できる環境整備を

上越地域では、糸魚川市の「奴奈川姫」を題材にした歌劇が糸魚川市民会館で 2 回開催されています。妙高市では、岡倉天心が書き下ろしたオペラ「白狐」が上演され、最近上越市でも規模は小さいですが、演劇が上演されています。

「上杉謙信の幼少期、青年時代、壮年時代」や「川中島合戦」、謙信没後の「御館の乱」、「悲劇の景虎」、「上杉景勝や直江兼続の生涯」、「直江状と関ヶ原」、「上杉家の家臣団」などを題材にした演劇などの創作と、春日山の舞台（仮設）や上越文化会館、オーレンプラザ、高田世界館などで上演することを提案します。

・人材の育成

文化芸術作品の上演は、通年観光の最も効果的な企画となります。

上越地域には、演劇などにできる題材が沢山ありますが、全くと言っていいほど活用されていません。当地の豊かな歴史を題材にした作家や演出家、役者を生む土壌が無かったせいでしょうか。

しかし、上越地域にも小さな劇団が生まれてきました。これらの劇団の演

目に上越の歴史を題材にしたものを加えて、演劇作家や演出家、劇団員を育てて行くことを提案します。また、上越地域外からの演劇関係の人材が集まる環境作りも大切かと考えます。

- ・演劇作品の公募

今後、上杉謙信などを題材にした歴史小説や歌劇の作品を募集し、優秀な作品を題材にした演劇を定期的に公演することを提案します。

これが軌道に乗るには10年から20年はかかると思われるので、最初は規模を小さくして地道にファンを増やし、演劇関係者の層を厚くしていくとよいと考えます。

文化芸術都市上越へ全世界から演劇を見に来ていただくため、英語で演じることも考慮すべきと考えます。そのためには、海外からの来訪者をもてなすため上越市全体の英語等の語学力向上を目指す必要があります。

- ・演劇と春日山観光などとセットで企画

上越文化会館やオーレンプラザ、高田世界館等における公演の前後に、春日山やビジターセンターでの体験や休憩、食事などを織り込みます。

宿泊を伴うツアーであれば、鮫ヶ尾城などの支城や高田城址公園の散策、地元の酒蔵や岩の原葡萄園を見学するのもよいと思います。また、宿泊も地元ホテルや旅館、温泉宿泊施設などへの分散宿泊も面白いと考えます

- ・「武田節」に匹敵する愛唱歌を

上杉謙信に関連した歌や詩吟は沢山ありますが、「武田節」に匹敵する歌はありません。春日山や春日山駅、劇場などで流せる謙信の愛唱歌を専門家に依頼するか、公募で作らしましょう。

上杉謙信の愛唱歌は、斉唱（メロディ）でも混声合唱曲、民謡流しに使える音頭などに編曲し、様々な機会に音楽を流し観光気分を盛り上げましょう。（公募での事例として「上越市民の歌 このふるさとを」があります。）

- ・紙芝居や絵本など地道な活動も

上越が生んだ童話作家小川未明も忘れてはいけません。小川未明は、春日山神社の自宅から高田へ通学した時期があり、春日山と無縁ではありません。将来、春日山の麓に小川未明文学館を建設し、観光ビジターセンターなどと連携できればと考えます。なお、小川未明文学館では硬い名称なので、「未明童話館」や「未明ドリームワールド」などにはいかがでしょうか。

来館者が、動画や絵本の読み語り、紙芝居などの視覚や聴覚で小川未明作

品に触れられ、人魚への疑似体験ができるコーナーを設けたらいかがでしょうか。春日山の周りに上杉謙信以外の要素も加えて飽きない観光地、リピーターが来る観光地を目指します。

③ 春日山を起点に上越を文化芸術のまちにする効果

上杉謙信を題材にした演劇や愛唱歌作りへの挑戦は、上越地域の文化芸術のレベルアップになります。

また、四季を通じた公演によって観光客を春日山に招くことができます。さらに、他の各種イベントの同時開催などの工夫によって、観光客増加への相乗効果が期待できます。文化芸術は無形の財産です。上越に来なければ観賞できない演劇や演奏によって国内外から通年で観光客を呼び込みましょう。

意見 8. 春日山登山道の整備と将来構想

1. 春日山城本丸へ行く登山道の問題

①本丸に至る登山道の大きな段差やぬかるみの問題

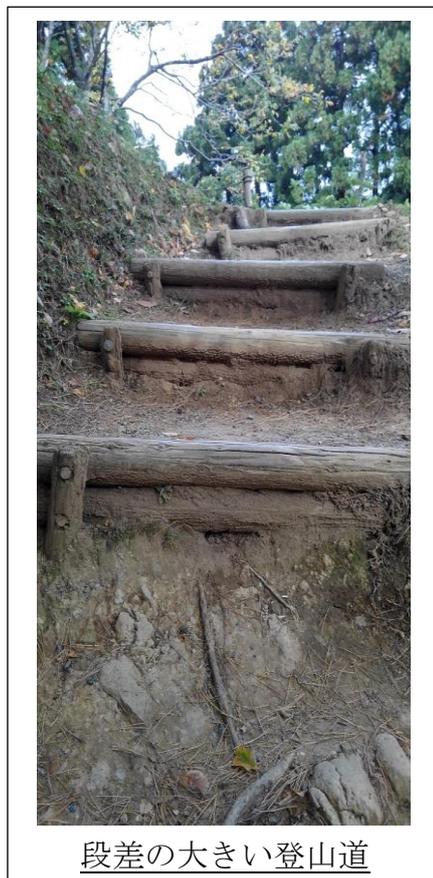
春日山神社から春日山城本丸までの登山道には、途中に大きな段差が何か所かあるため、高齢者や幼児が上がるには無理があります。

また、道幅が狭いところがあり、上りと下りの人のすれ違いが困難なところもあります。

さらに、雨降りの日には、道がぬかるみます。部分的に小砂利が敷かれているものの、大半が土の道のため、靴が汚れてしまいます。

遠方から来られる観光客を迎える態勢として、また日本 100 名城の登山道として、不十分と考えます。

史跡であることに配慮しつつ、春日山城を訪れる全ての人により快適に観光することのできる環境づくりを目指し、ユニバーサルデザイン化を推進すべきと考えます。



段差の大きい登山道

②春日山城に回廊の有無

春日山城の武将屋敷や本丸などへの道や通路がどうだったのかを知ることができないでしょうか。冬は春日山城内の雪をかき分けて移動したのでしょうか。冬期の雪を考慮して、春日山城には本丸や二の丸、三の丸、各屋敷を渡り歩くことのできる回廊があったのではないのでしょうか。

地元の言い伝えか分かりませんが、景勝屋敷と井戸の間には渡り廊下があったという話を聞いたことがあります。春日山城での生活について古文書等に回廊の存在を記した証拠があれば、回廊などの復元につながると考えます。

2. 春日山城跡の保存を考慮した交通手段を検討

①登山道の整備と改良

登山道の大きな段差を無くし、高齢者や幼児でも容易に歩けるように整備することを提案します。階段状の登山道の場合、段差である蹴上を15cm前後にできないでしょうか。急な上りや下りのところは螺旋状にするなど、登山道の形状を工夫したらよいかと考えます。また、道幅を広げ、すれ違いしやすくします。

階段の横にスペースのあるところは、階段とスロープ状の道を並列に敷設して歩きやすくする工夫もあつたらよいかと考えます。崖や斜面に面した道や蹴上がどうしても大きくなるころには、丈夫な手摺を取り付けて転落防止や上り下りをしやすくします。

雨天時を考慮して、道には小砂利や木材チップを敷くことを提案します。



②大手道公園と謙信公銅像前の車道の有効利用

大手道公園から「カメワリ清水」を経由して変則十字路から上正善寺や三ノ丸の下を通過して謙信公銅像に至る車道があります。これらの道は、普通車まで通ることが可能です。

埋蔵文化財センターや大手道公園からこの変則十字路や謙信公銅像まで、普通車での通行を許可することを提案します。また、観光ピーク時には埋蔵文化財センターや大手道公園から変則十字路や謙信公銅像前まで、電動のミニシャトルバスの運行を提案します。観光ピーク時の既存道路の渋滞緩和になります。

③本丸までの登山者増加に対応した配慮を

本丸近くのトイレや水飲み場などを備えた休憩所の設置を提案します。

観光客が増えれば、本丸近くに茶屋を営業しても採算が合うかもしれません。

④インバウンドを考慮した観光施策を

訪日外国人観光客の増加が見込まれます。インバウンドの増加を見込み、英語、中国語、韓国語を併記した春日神社境内や春日山登山道の案内看板の設置を提案します。

あわせて、このようなインフラ整備だけでなく、現地の観光ガイドや上越観光

コンベンション協会、市の観光担当職員に対して外国語の習得を勧めることも提案します。少なくとも英語が話せる観光ガイドの養成を提案します。

⑤登山困難者のためバギーカーや電動カートの利用

変則十字路から柿崎景家屋敷を通過して景勝屋敷の下まで比較的平坦な道があります。この道を整備してバギーカーや電動カートが通行できるようにすることを提案します。

これにより、体力に自信の無い方でも、埋蔵文化財センターや大手道公園から景勝屋敷や大井戸の近くまで行くことができます。本丸までももう少しです

⑥現在の春日山登山ルートにモノレールを敷設

将来の構想ですが、現在の愛宕谷公園～春日山神社～本丸～大手池公園の古道にモノレールを敷設する提案です。

当初、春日山の裏手にモノレールの敷設を検討しましたが、新たに山の傾斜を掘削するなど、史跡を傷付けることとなります。

このため、既存の登山道を上下二重構造にして、下は歩道で上はモノレール用線路を敷設します。これに山城に合う屋根を設け、夏冬全天候型の登山道を目指します。モノレールは、春日山城全体の景観に馴染むような外観のデザインが求められます。

今後技術の進歩で、歩行補助ロボットやドローンによる本丸への搬送ができるようになるかもしれません。

3. 春日山登山道整備による予想効果

春日山城跡の登山道を上りやすく整備することで、高齢な観光客も本丸まで上ることができるようになり、来場者の増加が見込めます。

春日山神社境内からの眺めもよいですが、春日山城本丸からの眺めは頸城平野や米山、日本海を一望でき、さらに素晴らしいものとなります。